

日中友好新聞

No. 581

2009/8/15


日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0045 東京都文京区湯島
西園寺1-1-1 東京文化会館

日中友好協会
岡山支部
〒700-8236
岡山市東区3-8-30 511
TEL: 0861272-3010
郵便番号11所
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-0011
倉敷市連島中央1-8-1
(宮地方)
TEL/FAX: 0866446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhong.web.infoseek.co.jp
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



平和への誓い

広島平和記念式典、こども代表の「平和への誓い」を紹介します。



「平和への誓い」を読み上げる
遠山有希さん(左)と矢埜哲也君

平和への誓い
人は、たくさんの困難を乗り越えてこの世の中に生まれてきます。
お母さんが赤ちゃんを生もう

とがんばり、赤ちゃんも生まれようがんばる。
新しい命が生まれ、未来につながっていきます。それは命の奇跡です。
しかし、命は一度失われると戻ってきません。戦争は、原子爆弾は、尊い命を一瞬のうちに奪い、命のつながりをたち切ってしまうのです。
昭和20年(1945年)8月6日午前8時15分。
それは人類が初めて戦争による被爆者をつくりだした時間です。

多くの夢や希望を一瞬にして吹き飛ばされた人たちの悲しい、闇の世界でした。
世界の国々では、今も、紛争や暴力によりたくさんの命が奪

われれています。僕たちのような子どもが一番の犠牲となり、体に傷を負うだけでなく、家庭を失い心に大きな傷を負っています。日本でもまだ多くの人が原爆の被害で苦しんでいます。入退院を繰り返す被爆二世の人もいます。だから、まだ戦争は終わつたとは言えません。
これから先、世界が平和になるために、私たちができることは何でしょうか。それは、原爆や戦争、世界の国々や歴史について学ぶこと、けんかやいじめを見過ごさないこと、大好きな絵や音楽やいろいろな国の言葉で、世界の人たちに思いを伝えること。

今の私たちにできることは、小さな一歩かもしれません。けれど、私たちは、決してあきらめません。話し合いで争いを解決する、本当の勇気を持つために、核兵器を放棄する、本当の強さを持つために、原爆や戦争という「闇」から目をそむけることなく、しっかりと真実を見つめます。
そして、世界の人々に、平和への思いを訴え続けることを誓います。
こども代表
広島市立矢野小学校6年
矢埜哲也
広島市立五日市南小学校6年
遠山有希

日中友好協会岡山支部では倉敷支部と合同で、南京、鎮江、上海への旅を企画しました。南京大屠殺記念館は昨年新館が建設されました。上海では魯迅記念館にも行きます。
日程は2009年10月17日(土)〜10月21日(水)迄の5日間です。費用は128,000円です。多数の参加を期待しています。
日中友好協会岡山支部
旅行企画係り
河井伸士

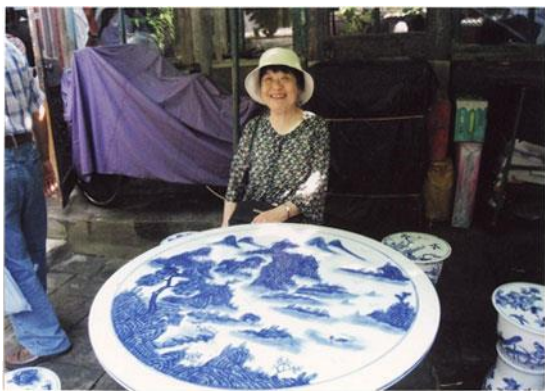
北京へ(2)

坪井あき子

日本からどんだん団体客を送りだしている旅行社にきくと参加者は、ほとんど海外旅行は初めて「だそうだ」。

今回30名のうち、中高年の夫妻組が12組もあった。他に母子のひと組。
北京では、大型バスで万里長城、明の十三陵、天壇、故宮、頤和園を回り、他にも天安門広場、胡同めぐり、オリンピック

関係の建造物やアジア最大の天井液晶スクリーンの見学など、確かに二日間で欲張り日程を効率よく、こなしていった。しかし、どこも「ちよつと見て、ふれて」という程度で、時間に追われ、とりあえずそこへ行ったという印象だ。
見学はそこそこ、みやげ物店での時間は見事なほど「干分に」ありました。こちらのほうが旅行の「重点」で、ガイドも店員も日本語で「かにお買い得か」という心理作戦、戦術を展開して見せてくれた。



胡同の民家訪問(石のテーブルと椅子) 坪井あき子さん

丹頂を送ってくれた「郭沫若」展を見て

竹内和夫

岡山県立美術館で8月23日まで開かれています。2時間くらいかけて見ました。なかなか見ごたえがあります。書や写真がたくさんあって、岡山に留学されていたころの記録もあり文学、歴史学者として日中の要人との接触もさかんでした。
ただ、日本女性との愛情交換については、ほとんど記述がなく、7月29日の『山陽新聞』が報じた「独文学、女性との出会い」に関係するものは見当たりませんでした。この辺にくわしい川崎医療福祉大学の姜波教授をお招きして、10月3日(土)に日中文化講座を開きますので、ご期待ください。



南蓮さん東京での

ご活躍を期待しております。

私が、南蓮さんを知る事になったのはいつのことか覚えていません。でも、中国語講座の担当になってからは、大変な方だと畏敬の思いで見つめていました。中国語講座の講師というより、中国残留日本人孤児訴訟の通訳として、裁判や報告集会で、南蓮さんの姿を見ないときはありませんでした。訴訟が終結した後は、中国からの帰国者たちの指導・相談員として、活躍されていきました。今回の送る会に出席された大森輝宏さんの話によると、養母の手術の時には手術室にまで入って、医師の言葉を通訳されたそうで頭が下がり

ます。帰国者の置かれている状況を理解し、気持ちに寄り添うように、通訳されるようでありました。日中友好協会岡山支部の中国語講座で、南蓮さんが担当されていたのは5講座でした。岡輝公民館の2クラスと旭公民館月曜日の入門クラスの新しい講師は馬小菲老師になりました。旭公民館木曜日の入門クラスの新しい講師は陳新妍老師、旭公民館昼間初級クラスの新しい講師は劉迎老師です。受講生の中には、南蓮先生がやめられるのなら私もやめ



7月22日、南蓮さんを送る会 中央が南蓮さん(下の写真も)

南蓮さんに代わって新しく担当して下さる

中国語講座の老師

劉迎 (リュウイン)

中国江蘇省徐州市に生まれる。岡山大学大学院博士後期課程修了。文学博士。

現在、中国学園大学で中国語などの講師を担当するかたわら、雑誌「岡山の記憶」などにてシリーズ論文「坪田讓治文学における〈戦争〉」を執筆中。



劉迎(リュウイン)さん

馬小菲 (マーシアオフエイ)

皆さん、こんにちは。この度、南先生のいくつかの中国語教室を引き継ぐことになった馬小菲(マーシアオフエイ)といいます。中国の内モンゴルから来ました。

日本に来て、そろそろ七年になります。日本語学校で日本語を習い、その後、岡山大学の文学部に入り、卒業後、同じ先生につき、岡山大学の大学院へ進学しました。今は修士の2年生ですが、修論のつけがまわってきて、焦る毎日です。

ここで教えることができるようになったのは元はといえば、何曉麗さんのおかげです。何さんの紹介で、小林先生の奥様、愛子先生の所で、お茶を習わせていただいたことがきっかけで、軍治先生とも知り合い、何回か通訳の仕事や料理教室の仕事を任していただきました。おかげで、南先生や、残留孤児の方々、日中友好協会に関わる方々と知り合うチャンスもできました。

これから、中国語教室のほうでもお世話になります。南先生には及びませんが、精一杯頑張りますので、これからもよろしくお願ひします。



馬小菲(マーシアオフエイ)さん

孫玉福39年目の

真実を読んで

井上愛子

まず日本語での著述に驚いた。どれほど勉強なされたのか? 測りしれない。詳細に丁寧に記されている。

幸運な人である。孫舜昌、付淑琴夫妻の養子になれて。

また多くの中国の友達に恵まれてずっと長い交流が続いてすばらしい。頑張り通して中学、高校へと。国籍を日本とし

たため二度の大学不合格とは至極残念、但し之によって日本に帰ろうと一大決心。日赤へ手紙を出し続けて漸く返事が届く。気が遠くなるような歳月を経て。

なんと辛抱強い人だろう。種々の仕事に就いてそのなかでも重労働に堪えて養母に多額



ドキュメンタリー映画
「嗚呼
満蒙開拓団」
08年/2時間

シネマクレールにて

8月15日(木) 21日10時15分

〈お国のため〉満州に

送られた移民達

2008年キネマ旬報文化映画ベストテン第1位。満州事変以降、日本政府の国策により旧満州に送り込まれ入植させられた移民「満蒙開拓団」。その数27万人、うち約8万数千人が帰国できないまま亡くなつたといわれる彼らの壮絶な体験を、旧満州で生まれた羽田澄子監督が数々の証言と共に綴る。生き地獄を経験し、家族を満州で亡くした人達の言葉が重い。

次回の新聞発送作業は
9月1日(木)午後1時半
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方
です。
稲葉和
竹内内
竹内製
坪井本
中本